富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for Gender Equality, University of Toyama

2014.3
第７号

チューリップの
花言葉は、
愛・思いやりです

TOPICS

●今年度の啓発活動を振り返って
●活動報告
●お知らせ
●リレーでつなぐワーク・ライフ・バランス
●数字で見る富山大学のいろいろ

今年度の啓発活動を振り返って

ワーク・ライフ・バランスの達人に聞く

今年度、男女共同参画推進室では、教職員の方々のワーク・ライフ・バランスを啓発することを目標に、1年を通じて2つの全学的な参加型企画を実施しました。

一つ目の取組みとして、全キャンパス10部局の教職員を対象としたワークショップを10月に開催しました。キャンパスの垣根を越えて黒田講堂に会し、グループワークを通じて、ワーク・ライフ・バランスについて「現状の課題」と「夢」を共有しました。参加者からは「会議等で夕方以降の仕事に拘束されている」など、仕事がプライベートの時間を圧迫している声が多く聴かれました。

それを受けて、二つ目の取組みとして、企業の第一線でご活躍されながら、留学・出産などキャリアとプライベートの両方を充実されてきた唐木幸子氏を黒田講堂にお招きし、「自分らしく働くことの大切さについて」というタイトルでご講演いただきました。唐木氏からは、仕事や子育てに追われながらも環境や他人に不満を並べるのではなく「すべての期待は自分に向ける」というメッセージを頂きました。また、「苦しいときにも好きなことはやめない」姿勢でご著書を書き上げられた経験をお話し下さいました。本学の教職員と一般の方を合わせ、161名の参加があり、質疑応答を通じて唐木氏にバランスのコツを伺いました。

富山大学で最も忙しく仕事をされている遠藤学長と永山学長補佐は、どのようにワーク・ライフ・バランスを実践されているのでしょうか。遠藤学長は、休日には趣味の自転車で出かけることを大事にされているそうです。学長は「遊びの気持ちを大切にすること」がワークの充実につながるのだとおっしゃいます。永山学長補佐は、「子ども達と一緒になって遊びを楽しむ」ことで、緊張感のある職場でのマネジメント業務とのバランスを取っておられるようでした。お二人に共通して、プライベートで遊び心を持たれることで、仕事のエネルギーが作られていくのではないかと伺えました。読者の皆様はいかがでしょうか。

男女共同参画推進室では、来年度も引き続き、ワーク・ライフ・バランスを充実させるための企画を考えております。今後も多くの方にご参加いただけますことを願っております。

ON Style

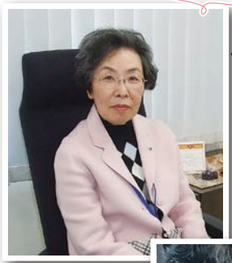
遠藤学長

OFF Style

転ばぬよう
走っています。

ON Style

永山学長補佐

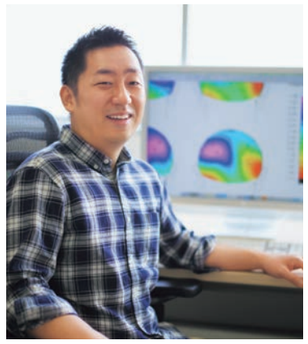


OFF Style

今日も小学校
4年生を相手に
将棋一局。

素敵な教職員の皆さんに、
ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。

リレーでつなぐ
ワーク・ライフ・バランス
vol.7



４時に帰宅する研究室

ON Style

人文学部（心理学）准教授
坪見　博之

略歴
広島県生まれ。2006年京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻心理学専修研究指導認定退学。2007年京都大学にて博士号（文学）取得後、東京大学先端科学技術研究センター認知科学分野特任助教、米国オレゴン大学客員研究員を経て、2012年より富山大学人文学部准教授。専門は視覚性意識の認知神経科学的研究。

私は2009年から研究員として、米国オレゴン大学のヴォーゲル(Vogel)先生の研究室に留学しました。日本から飛行機に乗りオレゴンの空港に着くと、すぐに羊や牛が放牧された長閑な風景が広がります。ヴォーゲル先生は、Natureなどの科学雑誌にインパクトの高い研究を発表し続ける視覚記憶の世界的な研究者です。そのような科学の先端と牧歌的な風景はうまくつながりが取れない気もしましたが、ずっと憧れていた研究室での生活が始まりました。

ヴォーゲル先生の研究室は、研究員が3人と大学院生が2人の小さな研究室です。毎日3時を過ぎるとヴォーゲル先生が自室から研究室にやってきて、雑談しながらメンバーの進行状況を聞き、4時になると帰って行きます。研究室のメンバーも帰り支度を始め、5時を過ぎると誰もいなくなります。これは特別な日のことではなく、毎日9時頃に研究室に来て、4時を過ぎると帰ることの繰り返しです。週末は誰も研究室にはいません。7月と8月は夏休み、12月は冬休みで、その期間も研究室には誰もいません。皆、釣りに行く、スポーツをする、友人や家族と過ごすなど、毎日が早退のようで非常にうらやましい働き方でした。

そんな中、私は仕事が終わらずに5時を過ぎても研究室に居ることがよくありました。それは残業というよりは「居残り」でした。しかも、遅くまで居る割には、仕事はむしろ他のメンバーよりも遅れており、まさに居残り以外の何者でもありません。

私は、どの辺りに違いがあるのだろうかと考えるようになりました。観察していると、ヴォーゲル先生も研究室のメンバーも、仕事の目標と範囲が非常に明確に定まっていて、その他の余計なことはしないようにしていることが分かってきました。メンバーはそれぞれ2つのプロジェクトを並行して進めます。メインと、それがうまく行かなかったときのためのサブのプロジェクトです。自身のプロジェクト以外の勉強もしているようですが、まずはそれぞれが持つ二つのプロジェクトに全力が投入されているのです。

また、ヴォーゲル先生は、研究室を留守にすることがほとんどありませんでした。年に二つの大きな学会に出て、たまに講演に出かける以外は毎日研究室に居ました。ヴォーゲル先生に聞くと、もちろん一年中多くの依頼があるようでした。ですが、9時から4時までの仕事で魅力的な研究成果を出すために、引き受ける事柄をかなり吟味しているようでした。頼まれるままに引き受けてあちこち出張に行っていては、今のようにうまく研究室をマネジメントすることができません。それよりは、クオリティの高い研究成果を出せば、研究室に入りたいと熱望する学生や研究員がさまざまな所から集まってきます。そうすると、研究室のテーマは自然と一つに収束します。実際、ヴォーゲル先生の研究テーマは20年近く一貫して視覚性の短期記憶であり、研究室のメンバーは少しずつ違いながらも同じテーマに取り組みます。そのため、協力し合うことが非常に容易で、これが短い時間でクオリティの高い研究を出し続けることができる秘訣のようでした。

私はと言うと、オレゴンに来たにもかかわらず、日本からの仕事を持ち越してきてしまっていたために、いくつもの仕事を抱えていました。そうすると、あちらの仕事もこちらの仕事もと気を取られ、結局はどの仕事に割くリソースも薄まってしまい、仕事がいつまでも終わらない割には進捗状況も捗々しくないという悪循環が続きました。そのことが徐々に分かりはじめて、私はそれまでに抱えていた仕事を思い切ってやめました。すると、プロジェクトに専念することができるようになり非常に快適な生活を送ることができました。オレゴンでの研究（労働）時間は、私のこれまでの生活の中で最も短かったにもかかわらず、最も良い研究成果を得ることができました。

ヴォーゲル研究室の仕事は、職人の仕事に通じています。職人はあれもこれもと仕事の手を広げません。庭師がプロ野球に出ようとしても、プロ野球選手が庭師をしても、どちらもトップレベルにたどり着くことはできません。アメリカでは、ヴォーゲル研究室だけではなく、ほとんどの仕事の範囲が非常に明確に決まっていました。研究のテーマを始めとして、事務の方が担当される範囲も明確に決まっていました。“It is not my business.”という表現は冷たいような気がしていましたが、実際には、どんな仕事でも範囲を明確にして専門家として取り組み、他者の仕事は他者のものとして尊重するという意味であり、責任を持ちながら余計なことには口出しをしないという考え方が、私はとても好きになりました。

羊や牛を見に行こうと思えば、仕事は早く切り上げなければなりません。そして早く切り上げるためには、仕事の範囲を絞らなくてはいけません。しかし、十分に吟味をして仕事を絞り、早く切り上げようと努力することは、結果的にはクオリティの高い仕事につながっており、それが最短でもありベストの道ではないのかと、のんびりとしたオレゴンで教わりました。

OFF Style

北海道の帯広を訪ねたときの写真です。旅行が好きで、日本国内やアメリカに住む友人を訪ねます。楽しい〆切があるとそれに合わせて仕事を終えられるので助かります。

事務職員の職別・男女別人数（各年度5月1日現在）

（人）

職名＼平成年度	20		21		22		23		24		25	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
部長	6	1	6	1	7	0	7	0	7	0	8	0
次長	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0
グループ長	36	1	32	2	32	2	33	2	34	1	32	1
主幹	17	0	21	2	39	4	45	3	45	3	45	3
主査	127	18	119	24	102	23	92	28	91	35	83	37
主任	26	51	18	44	17	46	21	36	25	35	25	38
小計	214	71	198	73	199	75	199	69	203	74	193	79

数字で見る 富山大学のいろいろ

左の表は富山大学事務職員の主任クラス以上の男女別人数を表しています。

一般企業に例えますと、グループ長が課長クラスで、グループ長以上の者を管理職と考えて頂ければと思います。

富山大学では今年度、永山くに子名誉教授が学長補佐に、大工原ちなみ教授が人文学部長、神川康子教授が人間発達科学部長に就任されましたが、事務職では女性の部長が平成２２年より着任していません。

今後、事務職の女性管理職が増えていくことを期待します。

編集後記

今号は、男女共同参画推進室が今年度特に力を入れて取り組んで参りましたワーク・ライフ・バランスについての記事を中心に掲載しました。新年度に向け、読者の皆様が仕事と私生活のバランスを考えられるきっかけとして、少しでもお役に立つことができたらと願っております。

富山大学男女共同参画推進室News Letter 編集メンバー

坪見博之　藤田景子　永山くに子　呉人惠　東田千尋　南村有輝子　須藤梨沙

発行
富山大学男女共同参画推進室
〒930-8555富山市五福3190
E-mail　smart@ctg.u-toyama.ac.jp
TEL076-445-6146　FAX076-445-6063
URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

◆ 文部科学省主催

女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013
―世界で活躍できる理系女性研究者の育成―

開催日：平成25年11月11日㊊
会　場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

女性研究者支援事業が採択されてきた大学および研究所等81機関が一堂に集い、事業の成果や今後の課題について、各機関がポスター発表した後、6つの分科会に分かれ情報交換と議論を深めました。分科会ごとのまとめの発表では、女性の登用に機関を挙げて取組み制度化している事例や、優秀な女性が発掘され活躍の場を広げるための仕組みづくりの現状と課題についてなどが種々紹介され、規模、分野、地理的要因が異なる全国の研究機関が、相互理解を深め、有益なヒントを得る機会となりました。

郷通子先生（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事）による基調講演「国際的に評価される研究とキャリアをめざして」、北澤宏一先生（東京都市大学学長）による特別講演「参加することと継続すること―そのためのしかけ」の後、6名によるパネルディスカッションにおいて、世界で活躍できる理系女性研究者の育成についてが議論され、“積極的に海外に出る”、“オリジナリティの高い研究をする”、“自分を高いところへ押し上げる意志を持つ”などの意見が出されました。

◆ 国立大学法人　金沢大学主催

女性研究者研究活動支援事業普及促進会議と HOKURIKU WOMEN RESEARCHERS' NETWORKキックオフシンポジウム
―女性研究者・技術者の連携による研究力向上をめざして― に参加

開催日：平成26年1月25日㊏
会　場：金沢歌劇座

金沢大学は平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動事業（拠点型）」の採択をうけ、北陸地域における女性研究者ネットワークの構築にむけた事業の取組みを開始しました。期間は３カ年。本学はそのなかで、国立大学法人の連携機関として普及会議を通じて事業活動に参画していく予定です。具体的な事業として、女性研究者へのエンカレッジとして活躍する女性を顕彰する「中村賞」へのチャレンジや合同研究ワークショップや研究費が助成される共同研究スタートアップ支援のプログラムへの参加があります。キックオフシンポジウムでは、主に本事業の紹介や第1回「中村賞」の授与式と受賞者講演、基調講演ならびにパネルディスカッションが華やかに行われました。

◆ 独立行政法人　国立女性教育会館主催

平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」に参加

開催日：平成25年11月28日㊍～11月29日㊎
会　場：国立女性教育会館（埼玉）
参加者：全国各地の高等教育機関から89名

セミナーでは、お茶の水女子大学長羽入佐和子氏による大学での具体的な女性研究者支援の取組みを紹介した基調講演、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策推進室長和田勝行氏による文部科学省における女性研究者支援の現状と課題についての説明、筑波大学名誉教授渡辺三枝子氏による「大学における女性のキャリア形成支援」と題する講義などがおこなわれました。

なかでも、お茶の水女子大学が推進している、学内外の優れた女性研究者を継続的にサポートする支援システム「みがかずば研究員制度」や、働きやすい雇用環境を構築するための指標「お茶大インデックス」などは、本学でも大いに参考にできる取組みとして興味深く拝聴しました。ちなみに「お茶大インデックス」は平成２４年度には全国で３６機関が利用するなど、学内にとどまらず、広く利用可能なものとなっているとのことです。

◆ 富山県主催

とやまイクメン・カジダン応援キャンペーン 本学で出前講座

開催日：平成25年12月19日㊍
会　場：人文学部３階　第6講義室
講　師：NPO法人ファザーリング・ジャパン
　　事務局長　徳倉 康之 氏
対　象：人文学部1年生　「キャリアデザイン」　受講者87名

富山県男女参画ボランティア課の要請を受け、人文学部中島淑恵教授のご協力のもと今年度初めて出前講座が実現しました。講師の徳倉氏からは、「笑っているお父さんを目指して育児をシェアする男性が増えると、社会が変わる！」との熱いメッセージが伝えられました。聴講した男女学生からのアンケートには、「まだまだ先のことと考えていた結婚や、将来築く自分の家族のあり方について考える良い機会になった」など出前講座が有意義であったという感想が多く寄せられました。

大工原ちなみ人文学部長のコメント

徳倉氏のイクメン談義を聞いて、男子学生からは積極的な育児参加、女子学生からは結婚や出産後も仕事を続けたいとの意見が寄せられました。仕事と家庭生活の両立について考える貴重な機会をいただき感謝しております。

大学入試センター試験特別保育を実施

開催日：平成26年1月18日㊏・19日㊐

ベビーシッター・休日保育利用料補助制度の一環として、大学入試センター試験において業務に従事する教職員４名（のべ9名の子）を支援しました。昨年同様、大学入試センター試験特別保育の会場としては、大学近隣の保育所にお願いして実施しました。

本学学生が男女共同参画推進室で体験学習

実習期間：平成25年11月18日㊊～22日㊎

医学部看護学科4年生1名が、男女共同参画推進室で総合実習を行いました。総合実習は4年間の学びを統合することを主題とし、学生が自らの課題に基づき実習を計画し、実行するものです。男女共同参画推進室を希望した学生は、富山県ならびに本学のワーク・ライフ・バランスに関する情報や施策の概要を調べるとともに、本学主催の男女共同参画推進シンポジウムにも参加しました。

◆ 富山県主催

元気とやま働く女性ネットワーク 煌めく女性リーダー塾プレゼンテーション発表会に参加

開催日：平成26年2月19日㊌
会　場：富山県民共生センター 3階大会議室

今年度から開講した、元気とやま働く女性ネットワーク「煌めく女性リーダー塾」の一環として、塾生の皆さんが「女性の活躍推進の課題と取組み」という課題研究を進めてきました。このプレゼンテーション発表会は、7月から始まった8回の講義の締めくくりとして行われました。本学からは、室智子（むろともこ）広報グループ主査が「男女の意識改革について」との研究テーマでアンケート調査を行い、その結果を考察しました。塾生を送り出した各事業所からのプレゼンテーション発表会の審査員として、本学からは村松薫人事企画グループ長が参加しました。村松グループ長からは、「5つのグループのうち、3つのグループが、富山県内で女性管理職の登用が遅れている点を取り上げるなど、塾生のモチベーションと問題意識の高さが感じられた。仮説や検証手法については、グループごとの個性が伺えた。」との感想が寄せられました。

お知らせ

入試業務・学会参加に伴うベビーシッター・休日保育利用料補助制度

この制度は、中学校就学前までの子を養育している常勤の男女教職員が、業務のため休日等に保育施設等を利用した場合に利用料の補助を行うものです。入試業務や学会参加の際に本制度の利用を希望される方は、年間を通じて随時受付ておりますので、男女共同参画推進室にお申込みください。

平成26年度 研究サポーター制度

新年度も本制度が継続できるように準備を進めています。平成26年度の募集は、4月頃と9月頃の年2回を予定しています。学内グループウェアや学部等を通じてご案内いたします。